

カンボジア官民合同委員会結果概要

日時：2022年3月11日(金) 東時間 09:30-11:30、日本時間 10:30-13:30

場所：オンライン(teams)にて実施

東 労働・職業訓練省(MoLVT)、NPIC、NTTI、PPI、ITI、JICA

日 厚生労働省、SESPP 事務局

参加者数：20人

政府(6)：東 労働・職業訓練省(MoLVT)、スタンダードカリキュラム部長を含め2人

日 厚生労働省 海外協力室長を含め4人

訓練校(8)：NPIC(2)、NTTI(2)、PPI(2)、ITI(2)

援助機関(1)：JICA 1人

有識者(1)：SESPP 事務局技術顧問

事務局(4)：JTБ 霞が関事業部4人 (別途、日東通訳1人)

1. 今年度の成果(SESPP 事務局)

(1) 技能検定に加え、本年度より新たに技能競技大会セミナーを実施した。

(2) 技能検定

・配電盤制御盤組立(2級 SAT@ITI)

・シーケンス制御(2級 SAT/SET@PPI)

・電気系保全(3級 SET/SAC@NTTI)、7名の認定評価者誕生

(3) 技能競技大会セミナー

・情報ネットワーク施工(@NPIC)

※COVID-19の影響により、研修は全てオンラインにて実施。

2. 次年度実施に向けた提案(厚生労働省)

(1) SESPP 事業の最終目標：技能評価システム(技能競技大会・技能検定)を構築することにより、技能労働者の育成及び能力向上を図る

(2) 技能競技大会・技能検定の目標・活動

・技能競技大会・・・新たな技能競技種目の実施に向けた技能競技運営方法、採点・評価方法の習得

・技能検定・・・国家検定制度の構築、SESPP 協力職種のアセスメントセンター認定

(3) 2022年度の事業実施案を提示

・技能競技大会・・・情報ネットワーク施工

専門家によるデモンストレーション・セミナー、技能競技委員の訓練、模擬協議の実施
(日本での研修・国内大会視察を含む)

・技能検定

2021年度事業のフォローアップ(シーケンス制御3級 SET/SAC、配電盤制御盤組立2級 SET/SAC、電気系保全3級 SET)

カンボジアの国家検定制度構築への協力

3. 官民合同委員会での主な意見

(1) カンボジアにおける技能評価システム(Skill competency Assessment)について

- ・技能能力基準(Skill competency Standard)の策定状況、技能評価(技能検定)の現状、技能競技大会の現状、将来の展望について発表。

(Competency Assessment Office・Bun Heang チーフ)

(2) 各訓練校、JICA 専門家からの発言

- ・情報ネットワーク施工の技能競技大会セミナーを実施。タイからの機材が到着しないというトラブルがあったが、研修自体は円滑に実施された。(NPIC・Seng Sokheng 副学長)
- ・SESPP で支援した電気系保全是、NTTI でも 54 時間のカリキュラムとして、授業を行っている。2022 年度はさらに上級の 2 級の実施を希望する。(NTTI・Hem Sokchan 副学長)
- ・シーケンス制御 3 級において評価者認定を希望する。(PPI・Chy Vanny 副学長)
- ・2022 年度は配電盤制御盤組立 2 級の SET を希望する。是非専門家に来てほしい。ASEAN 諸国が集まって行う研修も実施してほしい。(ITI・Srypov 副部長)
- ・COVID-19 の影響で、研修に参加できない受講者がでた。(PPI/ITI)
- ・受講生はとても熱心に研修に参加していた。評価者のレベルの維持、育成についてが今後の課題であると思う。(JICA・中野産業人材育成アドバイザー)
- ・認定者の育成に関しては、当初、特に優秀な認定評価者をマスターアセッサーに任命し、そのマスターアセッサーが評価者育成、認定をしていくといった考え方もあった。評価者の育成は単に SESPP だけのことでなく、SESPP を活用してカンボジアとしても取り組んでほしい。(厚生労働省・内野海外協力交渉専門官)

(3)カンボジアからの提言

- ・カンボジアと日本の評価システムは異なっており、日本のシステムをアレンジしてカンボジアで導入する必要がある。そのために、DSCと日本でチームを作って、日本の評価システムをカンボジアへの導入する取り組みを行ってほしい。

(Competency Assessment Office・Bun Heang チーフ)

4. まとめ

- ・カンボジアでは現在インダストリー・トランスフォーメーションというプロジェクトに取り組んでいる。現在調査段階だが、電気・電子の分野が関わっているので、SESPP 事業の受講者にも有益であると思う。2023 年 4 月のスタートを目指している。DSC からは日本に対して 2 つの支援の希望がある。ひとつは日本の評価システムをカンボジアに導入するための日柬共同チームによる取り組み、ふたつ目は、情報ネットワーク施工職種に

において、カンボジアの国内技能競技大会、ASEAN 技能競技大会に参加できる選手の育成の支援をお願いしたい。(DSC・Teang Sak 部長)

- ・本年度の研修が概ね順調に実施されたことについてカンボジアの皆さんのご協力に感謝する。カンボジアからより高度な支援、評価者認定の取り組み、評価システム構築への支援、人材育成への支援等要望をいただいた。日本側としてどのような協力ができるか検討していく。本事業を継続するためにも目に見える形での成果が必要である。技能検定においては SESPP 支援職種の状態検定化をしてほしい。また 13 職種で試験的に技能検定を行っているとのことだが、SESPP 支援職種も是非加えてほしい。

引き続きの協力をお願いする。

(厚生労働省・土井海外協力室長)